

り十分にきくことはできなかつたのである。——『精神現象學』においても、かの「精神的動物の國」をホッブスの自然狀態に立つ資本主義的利己的社會と規定し、「自己自身を確信せる精神、モラリテート」をナポレオン支配下におけるドイツに關するヘーゲルのユートピアと解する如き、示唆に富む分析をわれわれに與へながら、なほルカッチが『精神現象學』を「不氣味なもの」と呼ばざるをえぬことは、ヘーゲルの體系がマルクス主義的方法のみでは噛み切れぬものを含んでゐることを示すものであらう。

Georg Lukács: Der Junge Hegel, Wien, Europa Verlag, 1948, pp. 720.

(筆者 京都大學文學部(哲學)大學院學生)

### 京都哲學會公開講演會豫告

時 十一月十五日(土)午後一時半  
所 京都大學文學部第八教室

發生的見地よりみたる視知覺空間の問題

聖アウグスティヌスにおける人間論の構造

#### 前 號 目 次

所有と習慣(完)……………	山内 得立
フランツ・ボアズ……………	堀 喜望
——その歴史の概念について——	
カントに於ける「取り殘された」空間の諸問題……………	青木 茂

京都大學助教授 園原 太郎 氏

九州大學教授 長澤 信壽 氏

彙報

京都大學文學部哲學科講義題目

—昭和二十七年—

近藤 講師

近代科學の形成

(數學、文學、力學を中心として近代科學が如何にして成立したかを明かにせんとする)

演習 山内 教授

Husserl: Ideen zu einer reinen Phänomenologie und phänomenologischen Philosophie

(現象學派の最も基本的なる右書を研究し以て此派の根本思想を明かにせんとする)

山内 教授

Thomas : Summa Theologiae

(數年來述講しつゝあるトーマスの主著を本年に於ても述講する、Quaestio 50より始む)

澤瀉 講師

Bergson : L'Énergie Spirituelle

(右書中に收められたる La conscience et la vie 及び L'âme et le corps といふ二ベルタソン哲學の根本思想を講述する)

三村 講師

Fichte : Grundlage der gesunden Wissenschaftslehre

(右記よりハイヒテ哲學初期の根本思想を特に存在と意識の問題を關心事として講述し、インマネンツの立場の徹底のヘーゲルの方向と之につきぬハイヒテに獨自な方式の現代的意義とをカント哲學を背景とし

哲學

講義

山内 教授

本質と本質

(存在と本質との區別より始めて西洋哲學における本質の概念を明かにし、現代哲學における質存主義の意義を解明し併せて印度哲學における本質の概念に論及して東西思想の異同を論究せんとする)

研究

山内 教授

第五の倫理

(第一の論理—形式論理、第二の論理—先驗的論理、第三の論理—辨證法的論理、第四の論理—意味的論理、第五の論理—即の論理。以上の諸論理學の關係を明かにせんとする)

今田 講師

ゼームズの哲學

(James: Essays in Radical Empiricism をテキストとして昨年度より述講のゼームズの哲學思想を更に立ち入りて論及し以て現代のアメリカ哲學の根本思想を明かにせんとする)

て究明する)

西洋哲學史

講義 田中 教授

古代哲學史概説

(哲學の起源よりプラトンに至るまでの古代哲學初期及び古典期の歴史を取扱う)

高田 教授

中世哲學史概説

(本年度は重點を初期スコラから盛期スコラに置いて概観的講義をする)

野田助教

近世哲學史概説

(前半において十五世紀よりの近世哲學の發展を概観、後半においてヘーゲルを詳しく考察する)

研究 田中 教授

アリストテレス

(アリストテレスの生涯及び著作について概観し、プラトン學徒としてのアリストテレスの思想を詳しく取扱う)

高田 教授

Boethius: Opuscula Sacra について

テキストの解釋に基き、關心の中心をトマス哲學への連関におく)

野田助教

パスカル研究

(テキストとして Pensées [白水社版]を用いる)

V. Pouillet 講師

聖トマスに於ける存在の形而上學

(聖トマスの哲學體系に基づいて存在者、存在、本質、可能と現實、類比等の諸問題に關する形而上學的考察を行う)

高田 教授

Aristotelis De Generatione et Corruptione

(主として大學院學生のため、原文解釋の實習を主とする)

田中 教授

Platonis Phaedrus

(原文解釋及び文法上の練習をなす)

田中 教授

ギリシア語(初歩)と哲學演習」と共通

(用書 田中・松平共著「ギリシア語入門」)

高田 教授

Thomas Aquinas: Commentaria in Aristotelis Metaphysicam

(主として大學院學生のため)

高田 教授

Augustinus: Confessiones

(前年度に引きつらば五・八卷を講讀する)

高田 教授

ラテン語文法「哲學演習」と共通

(用書 吳茂一著「新修ラテン語教程」)

野田助教

Hegel: Vernunft in der Geschichte

(前學年の續き、ラッソン版テキスト譯刻本を用いる)

鈴木 講師

Platonis Apologia Socratis

(用書 岩波ギリシア・ラテン原典叢書)

森口 講師

Kant: Über die Fortschritte der Meta-

## 哲學研究 第四百十號

Physik seit Leibniz und Wolf

(哲學的眞理の決斷的性格及びその眞理様態の自覺という視角からカント哲學を理解することを目標とする)

## 印度哲學史

講義 松尾助教

印度哲學史

(印度のヴェーダ、ブラーフマナ、ウパニシヤッド及諸學派に於ける哲學思想の講述)

研究 松尾助教

諸派哲學に於ける我(amani)思想の研究  
(印度の諸派哲學體系における「我」思想の展開を研究する)

佐保田講師

古代印度における宗教的人間像の研究

(印度のヴェーダ時代における宗教觀念の發展を、それに現われた人間像を手掛りとして把握せんとする)

演習 松尾助教

金七十論(眞諦譯)

(本書は數論哲學に屬する數論頌〔Sūtra-khya-kārika〕に對する註釋の漢譯で、演習に於てその解讀研究を行う)

松尾助教

Keçavanigra: Tarka-bhāṣa (前學年の續き)

Yāsa: Yoga-bhāṣya

(Tarka-bhāṣaは印度論理學の綱要書〔梵語〕で、演習に於てその解讀研究を行う。)

## 五〇

本書の演習を終つた後に瑜伽經の註釋書〔Yoga-sūtra〕の解讀研究を行う)

## 支那哲學史

講義 重澤 教授

支那思想史

(支那思想全部門に關する一般的敘述、但し二十七年度は魏晉時代〔三世紀〕以後唐代〔九世紀〕までの豫定)

研究 重澤 教授

周禮の思想的研究

(支那に於ける最初にして最も完備せる法典たる周禮を社會的政治的條件との關連に注目しつゝ思想史的に研究する)

加藤 講師

小學と古代學

(文字の原初的意義を獨自の觀察を交えた宗教社會學的方法によりて究明し、之を基礎として古代文化の各部門に互る新研究を樹立せんとする)

演習 重澤 教授

方東樹「漢學商兌」

(清代漢學全盛期に在りて宋學の立場より漢學を大膽に批判せる點に此の書の思想史的意義を認めなければならぬ)

重澤 教授

王臨川全集(卷六十三)

(宋代の思想史並びに政治史の上に不滅の意義を有する王安石の基礎的研究として其の論議的著述を取り上げる)

心理學

講義 矢田部教授

心理學概説  
(心理學の基本的概念及び根本問題に關する体系的概説)

研究 園原助教授

發達心理學の問題(前學年の續き)  
(發達心理學の根本問題を系統化し、これについての諸事實を概観する)

和田 講師

知覺心理學(前期)  
(主として感性知覺の末梢的條件について概観する)

佐藤 講師

現代人格心理學の諸問題(後期)  
(人格に關する實驗的研究の發展を中心としてたどり現代人格心理學の諸問題に關説する)

演習 矢田部教授

現代心理學の諸問題  
(現代心理學の諸問題につき最新の諸知見を取上げて解説批判討論する)

園原助教授

心理學初級實驗演習  
(心理學の初歩的實驗)

矢田部教授

心理學上級實驗演習  
(初級實驗を了つたものに課する特殊問題研究)

園原助教授

心理學外國文獻講讀  
(主として學習、知能に關する歐米文獻の報

講讀

佐藤 講師

心理學外國文獻講讀(前期)  
(主として人格に關する歐米文獻の講讀)

和田 講師

心理學外國文獻講讀(後期)  
(主として知覺に關する歐米文獻の講讀)

講義 島

倫理學

研究 島

教授

倫理學通論  
(倫理學の課題方法、その諸問題、倫理學と哲學及び經驗科學〔心理學、社會學、歴史學〕との諸關係、家族、民族、市民社會、國家、人類の倫理的諸問題)  
市民社會の倫理(前學年の續き)  
(十八世紀以後におけるヨーロッパ資本主義の成立と發展及び日本の明治における同過程及びそれが含む倫理諸問題の比較研究)

岸畑 講師

人倫の問題とその發展  
(ヘーゲルの法哲學及びL・V・シュタイン、マルクスを通じての人倫の發展過程の研究)

演習 島

教授  
Dewey: Human Nature and Conduct  
(前學年の續き)

保田 講師

J. S. Mill: Utilitarianism (前學年の續き)

教育學教授法

講義 下程 教授 教育學概論

(教育學全般の立場、方法等を究明する)

研究 下程 教授 社會科教授法(後期より)

(社會科教授の目的、方法、評價等を究明する)

鯉坂 講師

カリキュラム構造の諸問題  
(教育過程の構造、方法等を究明する)

正木 講師

性格の研究  
(性格の構造、形成等について究明する)

渡邊 講師

教育社會學  
(教育社會學の立場と方法並びに教育行爲教育關係及び教育集團を研究する)

演習 下程 教授

Kant: Über Pädagogik  
(カントの教育學講義を中心に教育學の根本問題を檢討する)

正木 講師  
荻阪 講師

教育心理實習  
(教育測定實習及び教育心理學實驗)

美學 美術史

講義 井島 教授 美學序論

(美學の根本の立場と課題について)

研究 井島 教授

西歐藝術思潮研究  
(西歐の美術と藝術に現われた典型的な思潮に關する美學的研究)

上野 講師

西域の美術

(西域各遺跡出土の遺品のうち、主として繪畫作品について主題、作風、製作年代を檢討し西域美術の特質並びに佛敎美術東漸の過程を考察する)

源 講師

日本美術史

(上古より現代に至る日本美術史の概説)  
文藝學概論

竹内 講師

(精神的存在としての文藝の本質と構造を作家、作品、文藝思潮等の諸方面にわたつて解明する)

演習 井島 教授

Kant: Kritik der Urteilskraft  
(右書を中心とする演習)

井島 教授

美學の諸問題  
(美學上、藝術上の諸問題に關する專攻學生の研究を中心とする演習)

社會學

講義 白井 教授

社會學概論

(社會學方法論、社會關係、社會集團等の諸領域に互り主要問題若干を抽出して稍、詳しく説述する)

研究 重松 講師

近世社會の形式と精神

(近世社會を存在と意識の兩面から個人主義化というを中心として考察する)

姫岡 講師

近代家族—その形成と特質

(まづ家父長家族の特質を明かにしたのち、その近代化の過程を歴史社會學的に問題にし、近代家族の特質とみとめられるものを指摘する)

藏内 講師

文化社會學の諸問題

(社會學の立場における文化の概念、文化に媒介される社會結合、特に廣域社會の問題、文化の社會的傳達と社會的様式の問題等にわたる)

演習 白井 教授

社會學の諸問題

江藤 講師

(上級學生及び大學院學生に各自が現在究明しつつある問題について研究發表を求め、それらについて出席者一同が討議する)

T. Parsons: The Social System, 1951 (右書をテキストに使用しながら社會學の基本領域の一である社會體制の構成要素と構造を中心として演習を行う)

宗 教 學

講義 武内助教 宗教學概論

(宗教の本質及びその現象の諸形態を儀禮の問題を中心として考察する)

研究 西谷 教授

近代世界における宗教

(近代世界における人間のあり方と宗教と)

武藤 講師

Kierkegaard: Begriff der Angst 研究

柳瀬 講師

マリノフスキー研究

(故B・マリノフスキー教授並びにその學派の社會人類學的研究が宗教研究に與へた寄與)

演習 西谷 教授

Heidegger: Was ist Metaphysik

武内助教

Heidegger: Vom Wesen des Grundes

Hegel: Phänomenologie des Geistes (Religion 41)

佛 教 學

講義 長尾 教授

佛教學序説

研究 長尾 教授

(佛教學への入門としての概説)

攝大乘論の研究(前學年の續き)  
(玄奘譯を中心に他の漢譯及び西藏譯を参照、その梵語原形を考えつゝ攝大乘論の最後(増上戒學分以下)を特に研究する)

塚本 講師

淨土教の發達

(印度、中國、日本にわたつて、淨土教的な教義と信仰の歴史をあとづける)

舟橋 講師

業の研究

(俱舍論業品の所説を中心に、阿含と婆沙とを参照して、小乘佛教の業論を體系づける)

## 哲學研究 第四十號

五四

演習

長尾 教授

梵文寶篋論(Ratanavali)

(梵文 Ratanavali と漢譯寶行王正論とを比較しつゝ、その第二品以下を研究する)

山口 講師

西藏文講讀(月稱釋四百論)

(西藏譯を中心に、四百論第十品以下の月稱釋を梵文斷片を参照しつゝ研究する)

## 基督教學

講義

有賀 教授

基督教學序論

(基督教學の性格、方法及び課題を明かにし、且つ基督敎の歴史的諸形態を大觀する)

研究

有賀 教授

(ヘレニズム時代におけるヘブライ思想(ヘン・シラからフィロンへ)

(ヘブライ思想がギリシア思想の影響の下に如何なる發展を遂げたかをベン・シラの知慧・フィロンの著書等によつて論ずる)

G. G. Lloyd 講師 (トル書とその神學)

(新約聖書ヘブル書の性格及び神學思想を檢討し併せてパウロ思想との比較を論ずる)

演習

有賀 教授

Hellenistic Greek Texts 講讀

有賀 教授

Harnack: Lehrbuch der Dogmengeschichte 講讀

G. G. Lloyd 講師

舊約原典初步

關西哲學會廿七年度春期  
學術大會發表要旨(Weingreen: A Practical Grammar for Classical Hebrew を使用し) 初步(トナ  
イ語を修得させる)於 奈良女子大學  
研究發表 六月七日午後、八日午前  
講 演 六月八日午後一時半—四時半

## 研究發表(發表各半分、質疑廿分)

(1) 「唯識無外境」の意味について 關西大學 服部 正明氏

唯識 Vijnaptimatra の唯は實在的對象(外境 artha)の否定を意味するが、決して觀念論的な對象の否定を意味するものではない。——實在論的諸學派への其の批判の要點は(1)種々相違する認識が同一事物に對して成立つ、(2)認識の確實性の論據は經驗的認識を夢幻と見る佛敎徒には承認出ぬ、(3)對象の實在は論證出來ぬ、等である。更に意識の思量も亦悉く虛妄であり、單なる知覺は無內容にすぎぬ。外境は實は執着の對象であり、無外境の自覺によつて主觀も亦否定せられる。——識とは、この自覺に基き主客を否定し、然もその都度假設せられる主客的契機により認識を行境(Bhavana)として成立せしめる境位である。

(質疑。唯識の立場からの主客對立世界の成立の仕方に就て)

(2) 喜劇の出生 關西大學 佐藤三千雄氏

最も原初的なドラマが既に喜劇・悲劇の兩要素を含んでゐた。兩者夫々獨立して後を比較すると(1)悲劇が本來 Tragic



表現を目指すに對し、喜劇はむしろ Ethos の表現を目的とする、(2) 悲劇が英雄の稀な可能性を探究するに對し喜劇作家の眼は自分以下の者を輕蔑的に眺める、のである。——扱喜劇の性格は *homolochos*, *chron*, *alazon*, の三契機に分類される。

前二者は合して皮肉家といふ、喜劇の英雄となり、思ひ上りの *alazon* に對峙する。悲劇の *Hybris* に對應するものは喜劇の *Alazonia* である。——所が「雲」のシクラーテスは *alazon* であり *chron* ではない。彼を *alazon* から *chron* へ逆轉し皮肉を本來的意味に齎したのはプラトーンであり、そこに永遠のシクラーテスが生れる。(質疑。喜劇とギリシヤ精神一般との關係について)

### (3) 個體性と物質的自然——フォイエルバッハ研究

神戸大學 清水 正徳氏

フォイエルバッハの哲學は個體を正しく位置づけようとする立場から出發する。彼が最も熱心なヘーゲル學徒であつた時期の學位論文(1838)では既に自我と純粹思惟との二元的分裂が見られる。次いで *Cadanken über Tod und Unsterblichkeit* (1833) では理念化された近代的個人の抽象性が徹底的に自覚され且つ感覺が個體のエレメントとして強調され始める。やがてライブニッツ研究(1837)を通してこの個體の立場は原理的に確立される。個體自身として究明されたモナドは眞實在在としての感覺的な人間の個體を結論するに至る。ヘーゲル哲學の客觀的理性性は全く否定され個體の *Being* として物質的自然が把握される。モナドは彼に於て始めて有限的個體としての構造を持つのである。(質疑。感覺的個體に徹底した場合の理性の意

味)

(4) ハイテッガーに於ける「存在」と「無」の問題——ニヒリズムの自己克服について

大阪大學 田中 加夫氏

《Warum ist überhaupt Seiendes und nicht vielmehr Nichts?》と問ふハイテッガーの眞意は何か。——近代の *Subjektivismus* の本質的な *Seinverlogenheit* に斷乎たる疑問を呈し、その歸結たる無の經驗をば深く問ひ及ぶであるといふ意圖であろう。無の本質は *die im Ganzen abweisende Verweisung auf das entgegengesetzte Seiende im Ganzen* として即ち *Nichtung* として捉へられる。無の經驗に於て始めて *Seiendes* が、端的に存在するものとして、即ち對象としてではなく正にそれ自身の存在に於て出發される。無は實は忘れられていた存在そのものである。——無の本質的經驗を通して存在を見ようとするこの立場は、所謂ニヒリズムへの極めて獨自な對決の仕方であり、そこに原理的な「ニヒリズムの自己克服」が見出される。(質疑。(1) 無の具體的内容について。(2) ハイテッガーの新しい立場を立場の變更と見るべきか否か)

(5) サルトルのイマジナシオンについて

大阪市立大學 西村 嘉彦氏

イマジナシオンとは *image* を作る能力と定義してもよいが、*image* は心理學に於てのみならず哲學に於ても重要な概念の一つとなりつつある。サルトルに於けるこの *image* の理解、又彼の實存哲學との關係を簡単に指示してみよう。——サルトルは(1) 反省的直觀によつて捉へられる *image* の特色を四つ舉

げ、其等を通じて *imago* の意識が一の獨立した自發的意識作用である事を強調する。次に(2)存在の面から概観し、結局イマジナシオンが現實を否定的に超越する自由の働きであり、従つて意識の根本構造を形成してゐる點、又(3)イマジナシオンの中心は藝術活動にある故、藝術活動が自由を本質とする質存の根本屬性である點を解明してゐる。(質疑。(1)不隨意的 *imago* との関係、(2)カント及ハイデッガーの構想力との関係、(3)無の内容—質體的無ではなく活動的無)

### 公開講演會

#### 一、力と生命

大阪大學 澤瀉 久敬氏

精神の範疇は思惟、物質のそれは延長であるのに對し、生命の範疇は力である。力は先づその根源的構造を身體に於て謂はば空間的に分析し、次にその多様な姿を生命の誕生と進化に即して時間的に展開することによつて綜合的全體的に把握されよう。

〔力の原型的圖式は  $S[C[anN]]N[M]NOX$  は  $S[C[anN]]$

$N[M]N[M]V$  である。

〔生命の本質は自己保存ではなく *individualisation* であり、それは *organisation* 及び *association* として具體化する。

即ち、一方は、外的に、多様な生物形態とその行動を生じ、内的に意識の四段階的發展となり、他方は社會の諸形態を逆轉的に進化形成するが、その二方向は生命的全體的根源的自覺としての哲學に於て再び歸一する。體力、機械力、經濟力、政治力及びイデア(イズム)の力はそれら生の諸現象の具體的な現れである。約言すれば、生命とは力で

あり、力とは自己を創造的に自覺しようとする生命に他ならない。精神と物質から生命への道はない。力こそ思惟と延長をも可能にする根本的範疇である。

### 二、Kierkegaard and his Existential Alternatives

米國チネシ州 南部大學教授 H・ジョンソン氏  
(通譯) 京都大學 有賀鐵太郎氏

質存的狀況の人間には(1)自己が必ず死ぬ(2)然も未だ死んで居らぬ、といふ二つの確實性が與へられてゐる。彼は彼に許された時間の中に何らかの態度を選択せねばならぬ。——先づ(1)美學家の道が選擇されるが、如何に冥が楽しくあらうとも、それはやがて不安(絶望)と沈んでゆく。(2)倫理的態度がこれを克服すべく選擇される。人格的純粹性維持の爲の鬭争と英雄的な死とがその態度である。然し引受けた負擔の重さに人間の背は挫かれざるを得ぬ。故に人間は道德性實現の保證者たる神を要請する。即ち(3) *ethico-religious* ともいふべきヒューマンイズムの宗教に據らんとする。がこれは(4)實は宗教性Bといふべき啓示宗教によつてのみ、即ち永遠者の時間内への顯現といふ逆理の承認・父なる愛の神への信仰によつてのみ支へられる立場なのであつた。——キルケゴールの信仰による不安から信仰へのキリスト的的過程といふべく、被を單なる質存哲學者・絶望の人と見るのは大なる誤解といはねばならぬ。

追記 (一)右要旨はジョンソン氏を除き、出していたゞいたレジユメを基礎とし、之を適宜に壓縮して作つた。發表者各位の御裕恕を乞ふ。なほ、新鏡のキルケゴール學者、ジョンソン氏の講演は來朝の好機に特に依頼したものである。

(二)六月七日午前には廿七年度總會、八日夜には晩餐懇談會が催され學術大會とともに盛會であつたが、此等についての記事は紙面の制約のため割愛した。(酒井)